

学ぶ意欲の向上を図る道徳科の授業づくり

—多面的・多角的に考えさせ、成長を実感させる工夫を通して—

和歌山市立貴志南小学校
教諭 矢田良博

【要旨】

学ぶ意欲の向上を図る道徳科の授業づくりをめざし、児童に、多面的・多角的に考えさせ、成長を実感させるための手立てとして「学習の手引き」と「自己評価シート」を取り入れた学習指導過程を考え、授業づくりを行った。所属校での提案授業では、児童に「学習の手引き」を活用させることで、多面的・多角的に考えさせることができた。また、「自己評価シート」を活用させることで、児童に自身の学習する様子についての成長を実感させることができた。このような授業の工夫は、学ぶ意欲の向上を図る道徳科の授業づくりにつながることを見出した。

【キーワード】

道徳科、学ぶ意欲、多面的・多角的な考え、思考の視点移動、学習の手引き
自己評価シート

1 研究のねらい

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編（以下、学習指導要領解説と略記）では、道徳科の特質を生かした学習指導として、「道徳科の指導においては、児童一人一人が道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切である。それとともに、児童が自らのよさや成長を実感できるように工夫することが求められる。」（※1）と示されている。

このことを踏まえて、筆者がこれまで実践してきた道徳科の授業を振り返ると、大きな課題として次の2つを挙げるができる。1つ目は、児童に物事を多面的・多角的に考えさせられなかったことである。多面的・多角的に考えると、学習指導要領解説に示されている一例から、「道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていること」（※2）とする。筆者のこれまでの授業では、考えを広げるための発問の用意が不十分だったことで、児童に道徳的な事象に対する様々な視点による感じ方や考え方を共有させられなかった。2つ目は、児童に成長を実感させることができなかったことである。筆者のこれまでの授業では、学習内容の振り返りは行っていたが、児童に自身の学習する様子に着目させられていなかった。結果として、道徳科の学びについての肯定的な思いを十分にもたせられず、「もっと学びたい」という児童の姿を見取ることができなかった。

これらの課題から、学ぶ意欲の向上を図る道徳科の授業づくりをめざし、児童に物事を多面的・多角的に考えさせたり成長を実感させたりするための授業づくりについて研究構想図（図1）を基に進めることとした。

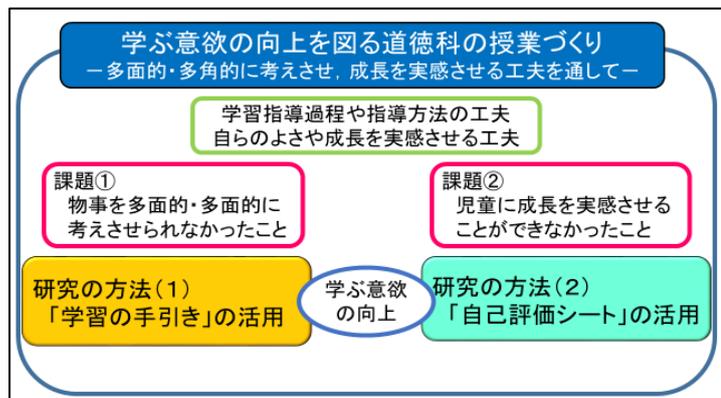


図1 研究構想図

2 研究の方法

(1)「学習の手引き」の活用

児童に、多面的・多角的に考えさせる手立てとして、「学習の手引き」を作成する。「学習の手引き」では、道徳科における「考え方」の例を示している。「考え方」については、押谷(2018)の思考の視点移動(図2)を参考にした。押谷は、道徳的な事象や状況について、まず感じたり、気付いたりすることを直感的思考と呼んでいる。そこから思考を深めることを分析的思考と呼び、そのよう

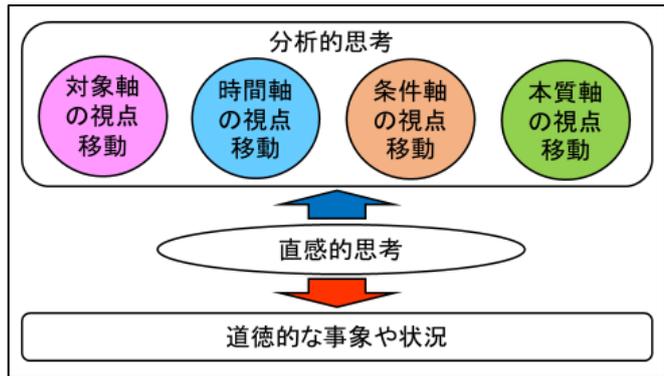


図2 思考の視点移動(※3)

ような思考の方法を児童が身に付けることが大切だと述べている。この分析的思考は4つに分けられており、対象を移動させてその立場で考える「対象軸の視点移動」、以前のことやこれからのことを考える「時間軸の視点移動」、条件や状況を変えて考える「条件軸の視点移動」、本質にかかわって問いかけを深めていく「本質軸の視点移動」がある。

押谷の考えから、筆者は個人の分析的思考を促し様々に考える視点をもたせ、他の児童と考えを共有させることで、個人の考えに広がりをもたせることができると思う(図3)。それにより、児童に多面的・多角的に考えさせることが実現できるのではないかと考えた。



図3 個人の分析的思考の広がり

これらを踏まえて、「学習の手引き」(図4)では、分析的思考を児童に分かりやすい言葉で「考え方」として示し、対象軸の視点移動を「立場」、時間軸の視点移動を「時間」、条件軸の視点移動を「条件」、本質軸の視点移動を「理由」と表記し、「考えるキーワード」と「使い方の例」を示している。「学習の手引き」の活用方法は、授業前のオリエンテーションにおいて、教員と児童で共有しておく。そうすることで、児童が必要に応じて「考え方」を手立てとして活用できるようにする。

考え方	考えるキーワード	使い方の例
立場	自分が〇〇だったら	・自分が主人公だったら、はずかしいと思います。 ・自分が相手だったら、うれしいと思います。
時間	前は・これからは	・前は、はずかしいと思っていました。 ・これからは、勇気を出してがんばりたいです。
条件	もしこのように考えれば	・もし断られたらと考えれば、声をかけられないかもしれないです。 ・もし声をかけなければ、後かいするかもしれないです。
理由	どうして・どういうこと	・どうして声をかけたかという、心配だったからだと思います。 ・どうしてそう思いますか。

図4 学習の手引き(一部抜粋)

また、教員は、学習指導案を作成する際、児童の発言を「考え方」の視点ごとに予想して示しておくことができる(図5)。これにより、児童の考えを広げることができるようになる。

【考え方】	○発問・児童
【理由】	〇たかしはどうしてすみ子と一郎をからかったのでしょうか。
【立場】	・男女が仲良くしていることは恥ずかしい。
【時間】	・からかうのはおもしろい。
【時間】	・前から仲良くしていたので気になっていた。

図5 「言葉のおくりもの」の学習指導案に記載した発言予想

(2) 「自己評価シート」の活用

児童に成長を実感させる手立てとして、「自己評価シート」を作成し、児童の自己評価を取り入れる。

学習指導要領解説では、自己評価について、「児童が自身のよい点や可能性に気付くことを通じ、主体的に学ぶ意欲を高めることなど、学習の在り方を改善していくことに役立つもの」(※4)とあり、自己評価を効果的に活用する重要性を示している。

櫻井(2017)は、自ら学ぶ意欲が発現するプロセス(図6)について述べている。まず欲求・動機、次に学習行動という流れがある。そして、学習の最後に自己評価として振り返りを行うことで、「有能感」(注1)が生じ、それが欲求・動機にフィードバックされることで後続の授業でさらに自ら学ぶ意欲を促すと述べている。筆者は、「有能感」が児童の成長の実感につながると考える。これらのことから、自己評価を効果的に活用するに当たり、「自己評価シート」を取り入れることで児童に成長を実感させることができるのではないかと考えた。

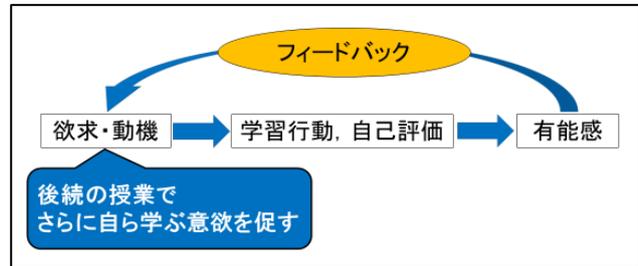


図6 自ら学ぶ意欲が発現するプロセス (※櫻井(2017)を基に筆者作成)

「自己評価シート」(図7)の項目については、①は、「学習の手引き」の活用について振り返り、各自で様々な「考え方」ができたかを確認するために設定した。②～④は、道徳科の目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」(※5)を参考にし、道徳科の学習活動に着目させるために設定した。また、⑤は、自分の学習の仕方によいと思ったことを書かせ、自らの成長を実感させるために設定した。さらに、⑥は、他の児童から認められたり、励まされたりすることも自らの成長の実感につながると考え、設定した。

「自己評価シート」(図7)の項目については、①は、「学習の手引き」の活用について振り返り、各自で様々な「考え方」ができたかを確認するために設定した。②～④は、道徳科の目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」(※5)を参考にし、道徳科の学習活動に着目させるために設定した。また、⑤は、自分の学習の仕方によいと思ったことを書かせ、自らの成長を実感させるために設定した。さらに、⑥は、他の児童から認められたり、励まされたりすることも自らの成長の実感につながると考え、設定した。

自己評価シート		年 組 番 名前 ()			
次の①～④は、自分が思う番号を○でかこみましょう。⑤は自分で書き、⑥は友達に書いてもらいましょう。 【 4 そう思う 3 どちらかといえばそう思う 2 どちらかといえばそう思わない 1 そう思わない 】					
	「 月 日 」	「 月 日 」	「 月 日 」	「 月 日 」	「 月 日 」
① 学習の手引きの考え方は、考える助けになった	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
② 自分の考えをもつことができた	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
③ 他の考えを聞き、自分の考えを広げることができた	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
④ これまでのことや、これからのこと等、自分の生き方の考えを深めることができた	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑤ 今日の自分の学習の仕方によいと思ったこと					
⑥ 友達からのコメント 友達の学んだことや学習の仕方によいと思ったこと	()より	()より	()より	()より	()より

図7 自己評価シート

3 所属校における授業研究

所属校の第5学年（2学級 57人）を対象に授業研究計画を作成した（表1）。

授業づくりに当たっては、2 研究の方法で述べた2つの研究内容を取り入れた学習指導過程を考えた（表2）。

導入では、児童の直感的思考を促すための発問を行い、道徳的な事象や状況についてまず感じたことや気付いたことを問う。展開では、分析的思考を促すための発問や中心発問を行う。

児童の予想される考えを十分に引き出せていない時には、予め設定していた補助発問を行い、新たな考えをもたせることで、多面的・多角的に考えさせるための手立てとする。終末には、授業内容についての振り返りと、「自己評価シート」による自己評価の時間を設定している。

このような学習指導過程を基にして学習指導案（図8）を作成し、授業研究計画に基づき、提案授業を行った。

表1 授業研究計画

回	教材名	内容項目
オリエンテーション	「学習の手引き」の活用方法の確認	
第1回	言葉のおくりもの	B 友情, 信頼
第2回	手品師	A 正直, 誠実
第3回	うばわれた自由	A 善悪の判断, 自律, 自由と責任

表2 学習指導過程

導入	1. 教材の範読をし、直感的思考を促す。
展開	2. 教材について分析的思考を促す。
終末	3. 振り返りをさせる。 4. 自己評価をさせる。

学習活動		【考え方】	発問と予想される児童の反応 ○発問 ◎中心発問 ☆補助発問 ・児童
導入	1. 直感的思考		○学校で「自由にしている」と言われたらどんなことをしますか。 ・好きなことをする。楽しいことをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自由について考えよう</div>
展開	2. 分析的思考	【立場】 【時間】 【理由】 【条件】	○ジェラールはろう屋の中でなみだを流しながらどんなことを考えていたでしょう。 ・ガリューに申し訳ないと思った。後悔している。 ・自分の考えは間違っていた。 ☆ジェラールはこれからどうしたいと思っているでしょう。 ・これからは、決まりを守りたい。 ・自分勝手にやめたい。 ◎本当の自由とは、どんなことに気をつけた自由なのでしょう。 ・自分勝手ではない。決まりを守る。 ・人の意見を聞く。 ☆決まりがない場合にはどうやって判断しますか。 ・決まりがなくても、自分で考える。
終末	3. 振り返り 4. 自己評価シート		○今日の学習で大切だと考えたこと、これから自分がしていきたいことを書きましょう。 ○今日の学習を振り返りながら、自分の学習の仕方についての自己評価をしましょう。

図8 「うばわれた自由」の学習指導案（一部抜粋）

提案授業前に実施したオリエンテーションでは、道徳科を学ぶ意義や学習の流れ、「学習の手引き」の活用方法を児童と確認した。その後、3つの教材を扱い授業を実施した。

研究の成果と課題を明らかにするために、児童を対象に道徳科の授業に関する事前事後アンケートを実施し、回答結果を数値化したもの（注2）やアンケートの回答理由の記述から考察した。また、毎時間の授業記録やワークシート、「自己評価シート」の分析も行った。

4 成果と課題

2 研究の方法で示した2つの研究内容について、成果と課題を順に述べる。

(1)「学習の手引き」の活用

「学習の手引き」に関する事前事後アンケート調査結果(表3)から、成果について2つ述べる。

表3 「学習の手引き」に関する事前事後アンケート調査結果 (n=57)

質問項目	事前	事後	差
①「自分が〇〇だったら」と考えることができている	3.2	3.6	0.4
②「前は…」 「これからは…」 と考えることができている	3.2	3.6	0.4
③「もし、このように考えれば」と考えることができている	3.2	3.4	0.2
④「どうして」「どういうこと」と考えることができている	3.5	3.3	▲0.2
⑤他の人の考えを聞いて、自分の考えを広げることができている	3.1	3.5	0.4
⑥道徳の授業を通して、自分の生き方について考えを深めることができている	3.1	3.5	0.4
⑦学習の手引きの考え方のヒントを使うと、考えやすかった		3.3	

※⑦は、事後のみ実施 ▲はマイナスを表す

1つ目は、考えるための手立てとなったことである。①, ②, ③の上昇から、提案授業前に比べて、「立場」、「時間」、「条件」の「考え方」を活用できたという思いをもたせることができた。また、⑦の理由として「ヒントがあると考えがたくさん出るから」といった記述が見られたことから、「学習の手引き」にある「考え方」を活用することは、児童一人一人が考えをもつための助けとなったと捉えられる。

2つ目は、多面的・多角的に考えさせられたことである。⑤の上昇から、考えの広がりを実感することにつながったと考えられる。「言葉のおくりもの」の授業を行った際の児童Aのワークシートの一部(図9)を見ると、「これから」という言葉を使い、「時間」の「考え方」を活用して意見を述べている。そして、他の児童の発表を基に新たな考え方ができたという内容の記述からは、考えの共有により、多面的・多角的に考えることができていると捉えられる。

他に、「うばわれた自由」の授業を行った際の児童Bのワークシートの一部(図10)を見ると、中心発問「本当の自由とは、どんなことに気をつけた自由なのでしょう」に対して、まず個人の分析的思考として「他人に迷わくがかからない」と書いていた。次に、児童Bはグループで話し合う中で、他の児童の分析的思考である「国の決まりを守る」をメモし、自分の考えとして「楽しくなる」を書き足した。このことから、個人の新たな分析的思考として、「決まりを守るから、楽しくなる」という考えの広がりが見られ、多面的・多角的な考えの実現ができたと考えられる。

また、事前事後アンケートの⑤の回答が「どちらかと言えばそう思わない」から「そう思う」に変わっていた児童がいた。この児童は毎時間ワークシートに自分の考えだけではなく、他の児童の考えを書いてきた。これらのことから、毎時間の考えの共有が、多面的・多角的に考えたという個人の実感につながったと見取ることができる。

児童の発言予想を生かした補助発問についても、児童の考えを広げる効果が見られた。「うばわ

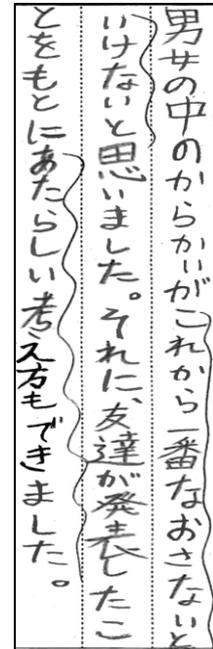


図9 児童Aのワークシート

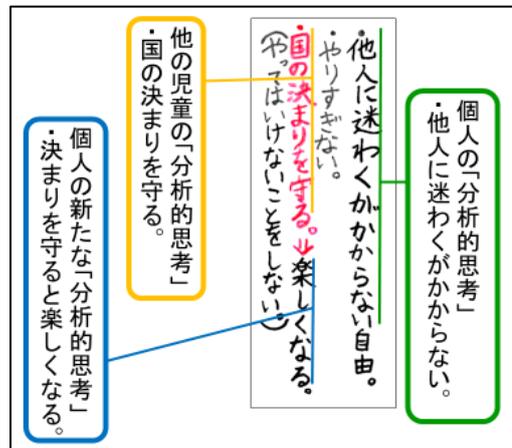


図10 児童Bのワークシート

れた自由」の板書(図11)にあるように、中心発問である「本当の自由とは、どんなことに気がつけた自由なのでしょう」について話し合っていた際、「決まりを守る」という「理由」の視点以外の「考え方」が出てこなかった。そこで、補助発問「決まりがなかったら、どうやって判断しますか」によって、思考の視点を変え、「決まりがなかったら、自分で判断する」という「条件」の「考え方」で考えさせることができた。

これらに加えて、⑥が上昇したことから、多面的・多角的に考えたことで自己の考えが深まったという実感をもたせることもできたと考える。

課題としては、④が下降したことから、一部の児童に、「どうして」、「どういうこと」という発問に対する難しさを感じさせてしまったことが挙げられる。道徳科において考えをもたせるためには、児童の発達段階や経験を十分に配慮して授業づくりをすることや、「学習の手引き」を継続して活用するなどの手立てを通して、「考えをもつことができた」と実感させることが大切であると感じた。

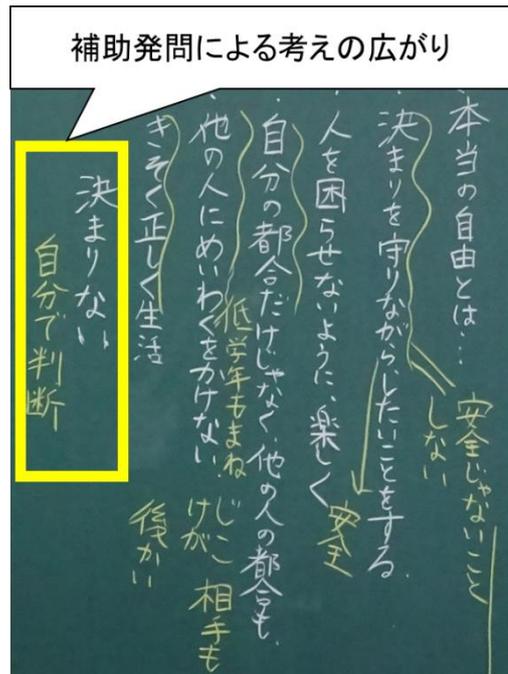


図11 「うばわれた自由」の板書(一部抜粋)

(2) 「自己評価シート」の活用

「自己評価シート」についての事前事後アンケート調査結果(表4)から、成果について2つ述べる。

表4 「自己評価シート」に関する事前事後アンケート調査結果(n=57)

質問項目	事前	事後	差
⑧自分の考えにはよいところがある	2.9	3.1	0.2
⑨自分の考えは他の人にみとめられている	2.9	3.1	0.2
⑩自己評価をすることはよいと思った		3.4	
⑪自己評価シートで友達や先生からのコメントがあるのはよいと思った		3.7	

※⑩⑪は、事後のみ実施

1つ目は、自己評価によって成長を実感させることにつながったことである。⑧に上昇が見られたことから、「自己評価シート」の活用によって、これまでより自身の考えを肯定的に捉えさせられたと考える。また、⑩の理由として、「自分はこんなことができているんだと成長していることが分かったから」、「自分のよいところを書くと、うれしくなって道徳をがんばろうという気持ちになるから」といった記述が見られた。これらのことから、自己評価が成長を実感させ、道徳科を学ぶ意欲をもたせることにもつながったと考える。

また、児童の「自己評価シート」(図12)の記述内容を見ると、自己評価の記述には「自分の意見をたくさん発表したり、みんなの意見につけたしたりすることができた」とあり、自身の学習の仕方でもよいと思ったことが具体的に書かれていたことから、自己評価し、成長を実感する様子を見取ることができた。

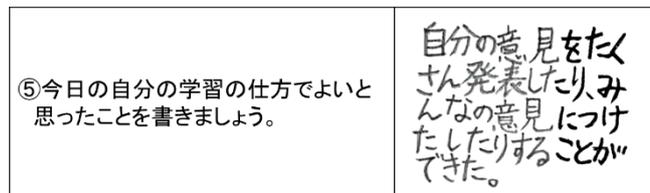


図12 児童の「自己評価シート」(一部抜粋)

2つ目は、他者の肯定的なコメントが成長を実感させることにつながったことである。⑨の上昇が見られたことから、児童に自身の考えが認められているという認識をもたせられたと考える。⑪の理由として、「コメントをもらおううれしいから」、「自分の意見が認め

られているから」といった記述が見られた。これらのことから、「自己評価シート」に教員や他の児童からのコメントがあることで、児童の成長の実感を高めることができると考える。

課題としては、⑩の理由で、自分のよいところについては考えにくいという内容の記述が見られ、自身を客観的に見つめることが難しい児童に対する支援が不十分だったことが挙げられる。例えば、自己評価を行う前に学習の仕方についてお互いのよいところを伝え合う相互評価を取り入れることで、自身のよいところに気付かせ、自己評価する際の視点を広げることができると考える。

今回の授業研究で、「学習の手引き」によって多面的・多角的に考えさせることができ、「自己評価シート」によって成長を実感させることにつながった。そして、「自己評価シート」に関するアンケートの記述から、成長の実感によって道徳科を学ぶ意欲をもたせることができたことを見取ることができた。これらのことから、このような手立てを取り入れることは、児童の学ぶ意欲の向上を図る道徳科の授業づくりに有効であると考えられる。

5 今後に向けて

本研究を通して、児童に物事を多面的・多角的に考えさせ、成長を実感させることができたことから、授業の質的な向上を図ることができたと考える。今回の授業研究では、「自己評価シート」を児童に自身の学習する様子についての成長を実感させるために取り入れた。しかし、道徳科の授業は道徳性を養うという目標で行うものであることから、毎時間の学習する様子についての自己評価だけではなく、年度途中や年度末に児童が自分自身を振り返る自己評価を取り入れることも必要である。そうすることで、道徳的な成長を児童自身が長期的に見取ることにつながると考える。また、学校の教育活動全体で行う道徳教育については、各教科等と道徳科における内容項目等を教科横断的に組み立てるといったカリキュラム・マネジメント(注3)を実施し、教員間で実践を振り返ることが、今後の道徳教育を充実させると考える。さらに、家庭や地域社会と連携していくことで、道徳教育をより豊かなものにしていくこともできる。

今後は、カリキュラム・マネジメントの視点をもって、教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進することで、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていきたい。

<注釈>

注1 櫻井(2017)は、有能感について、これまでの経験からできるという思い、つまり経験の結果として自信をもつことであると述べている。

注2 選択肢を、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」の4つとし、それぞれを順に4点、3点、2点、1点として合計した数値を回答者数で割ったものであり、最大値は4となる。

注3 文部科学省(2018)は、カリキュラム・マネジメントについて、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことと示している。

<引用文献>

※1 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき p.82(2018)

※2 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき p.111(2018)

※3 押谷由夫「対象軸、時間軸、条件軸、本質軸の視点移動のスキルを磨く」『道徳教育 8月号 No.722』明治図書 p.5(2018)

※4 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき p.112(2018)

※5 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき p.16(2018)

<参考文献>

- ・赤堀博行『特別の教科 道徳で大切なこと』東洋館（2017）
- ・押谷由夫「対象軸，時間軸，条件軸，本質軸の視点移動のスキルを磨く」『道徳教育 8月号 No.722』明治図書（2018）
- ・加藤宣行『加藤宣行の道徳授業 考え，議論する道徳に変える指導の鉄則 50』明治図書（2017）
- ・加藤宣行『この一冊でぜんぶわかる！加藤宣行の道徳授業 実況中継』東洋館（2018）
- ・坂本哲彦『小学校 新学習指導要領 道徳の授業づくり』明治図書（2018）
- ・坂本哲彦『教科書教材でつくる道徳科授業のユニバーサルデザイン』東洋館（2019）
- ・櫻井茂男『自律的な学習意欲の心理学 自ら学ぶことは，こんなに素晴らしい』誠信書房（2017）
- ・佐藤幸司『道徳の授業がもっとうまくなる 50の技』明治図書（2018）
- ・島恒生，吉永幸司『島恒生・吉永幸司のみんなでつくる「考え，議論する道徳」』小学館（2017）
- ・永田繁雄『小学校道徳 指導スキル大全』明治図書（2019）
- ・牧崎幸夫，広岡義之，杉中康平『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる2』ミネルヴァ書房（2019）
- ・諸富祥彦『小学校道徳 評価を位置付けた授業プラン&通知表文例集』明治図書（2018）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館（2018）